

ミニ講座

相談支援について ②

相談支援のステップ

インテーク（最初の面談）→アセスメント→支援計画作成→モニタリング

今回は、前回のインテークの続きになります。

1. インテーク（最初の面談） (ii)

皆さんは、人生においていろいろな出来事をどのように乗り越えてきたのでしょうか。そのとき、みなさんを助けてくれた「人・物・信条」はどんなものだったのでしょうか。そして、それら様々な出来事の中でみなさんが「どうしてもゆずれなかったもの」（価値・信条）は何か等、みなさんが語ること一つ一つを意味づけながら、「ナラティブ（自ら語る自らの物語）」として捉えていくことを心掛けています。つまり、みなさんの言葉を言葉のまま聴くのではなく、そこに含まれる背景やその言葉で、表したい真のことが何かを理解しようとするわけです。そこには、みなさん自身が気づいていないことも含まれます。

ウ 複雑で多岐にわたる情報

人の暮らしは、複雑多様なシステムで成り立っています。ある事象が起こるには、それがどんなに不可解に感じられる事象であったとしても、その背景には、それが「起こらざるを得ない」複雑で多岐にわたる事象（情報）が存在していると考えられます。

「原因」イコール「結果」という直線的思考ではなく、「1つが全てに影響をあたえ、全てが1つに影響を与える」というシステム内の相互関係を捉える、「原因が結果となり、また次の事象の原因となる」という円環的思考等を用いて、あらゆる角度から情報をみつめ分析することを心掛けています。

エ アンビバレントを大切に

アンビバレントとは相反する事象を同時にとらえる視点です。思考・感情・行動の不一致を読み解いていくことは、みなさんを理解する上で、大きな手がかりとなります。

「助けてもらいたい」本当は「自分でやりたい」、アルコール依存症の息子に対して母親は、「この子には、苦労させられてばかり・・・この子さえいなければ・・・」

と言うが、その一方で、「やはり、息子が大事」「とても大切」と思っているというように相反する感情が母親の中で同居し、葛藤をおこしているのです。表面的な言葉をうのみにするのではなく、様々な角度から一つの事象を捉え、考えていくことが大切だと考えています。

オ デマンドとニーズを見極める

デマンドとはみなさんからの要求（みなさんの言動上の表現）のことで、ニーズとは必要性（生活に欠けた領域）のことです。デマンドとニーズはイコールではなく、デマンドがあるからといって全てニーズと捉えると今後のアセスメントの方向が定まらなくなります。

例えば、みなさんが ADL（日常生活に必要な動作：食事、入浴、歩行 など）の低下により「買い物に行けずに困っている」と訴えたとします。これはデマンドです。そのデマンドへの対応としてヘルパーに買い物をしてもらうというプランを立てます。いわゆるデマンド対応プランということですが、実はみなさんのニーズは「自分で買い物に行けるようになりたい」ということだったりします。そのため、私たちは、「自分で買い物に行けるようになりたい。」というみなさんの真のニーズを理解することが必要で、そのうえで、ニーズを満たすためには、どんな支援が必要なのかを考えることが重要と感じています。